

「死への不安に及ぼす宗教関連意識の効果」

神戸学院大学大学院

人間文化学研究科

松田茶茶

『死を研究する領域』

・医学， ・倫理学， ・教育学， ・宗教学， ・心理学， etc...

個人がもつ，死に対する態度 = 多面的・包括的な概念

・不安， ・恐怖， ・抑うつ， ・受容， etc...

(Spilka, Stout, Minton, & Sizemore, 1997; Thorson & Powell, 1988, 1989; Wong, Reker, & Gesser, 1994)

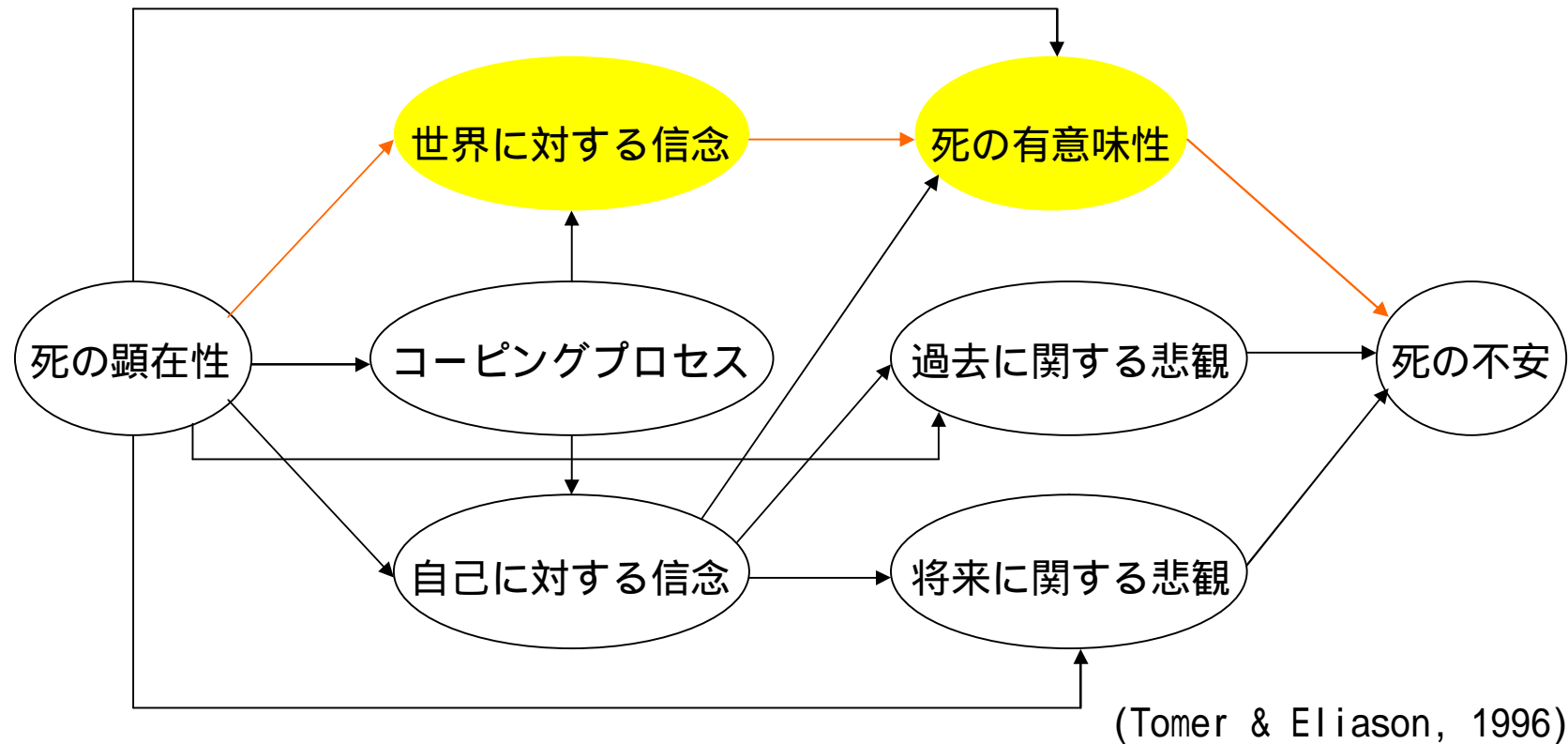
『“死の不安”とは・・・』

性格特性や心理的不適応，リスク行動と強い関連をもつ。

(Conte, Weiner, & Plutchik, 1982; Cox, Borger, Asmundson, & Taylor, 2000; Frazier & Foss-Goodman, 1988-89; Maltby & Day, 2000; White & Handal, 1990-91)

デス・エデュケーションや健康教育に寄与する役割を大きくもつ要因

『 “死の不安” 形成モデルより』



- 死の不安の構造は、文化的、宗教的な特性を強くもつ。

(Florian & Kravetz, 1983; James & Wells, 2002)

- 宗教属性の異なる集団を対象に、死の不安に関する調査を行なうと、得られた結果には差異が認められる。

(松田, 2003; 岡村, 1983; 丹下・坂口, 1987)

『 “死の不安” と “宗教関連意識” の関係性(1) 』

§ Florian & Kravetz(1983)

- ・ 宗教信仰レベルの高い者 「自己消滅」に関する死の不安が有意に低い。
(対象: ユダヤ系キリスト教男子学生と士官学校男子学生178名(18～30歳))

§ Young(1992)

- ・ 宗教信仰レベルの高い者 「死は懲罰だ」と考える傾向が有意に低い。
(対象: プロテスタント, カトリック, ユダヤ系キリスト教, 無神論のいずれかに属する1228名(18歳以上))

§ Jeon(1997)

- ・ キリスト教徒 死の不安が有意に低い(非キリスト教徒と比較)。
 - ・ 礼拝参加率の高いキリスト教徒 死の不安が有意に低い。
 - ・ 聖書を読む頻度の高いキリスト教徒 死の不安が有意に低い。
 - ・ お祈り頻度の高いキリスト教徒 死の不安が有意に低い。
- (対象: 韓国陸軍兵士118名)
- } (キリスト教徒内で比較)

§ Roshdieh(1997)

- ・ 宗教にまつわる信念・行動の高い者 死の不安が有意に低い。
 - ・ 宗教にまつわる信念・行動の高い者 死にまつわる抑うつが有意に低い。
- (対象: イスラム教徒大学生)

『 “死の不安” と “宗教関連意識” の関係性(2) 』

§ Swanson & Byrd(1998)

- ・ 内発的宗教信仰の高い者 死の不安が有意に低い .
 - ・ 内発的宗教信仰の高い者 「懲罰である死」に対する恐怖が有意に低い .
- (対象: 大学生70名(19 ~ 30歳))

§ Clements(1998)

- ・ 内発的宗教信仰の高い者 「未知なる死」に関する死の不安が有意に低い .
- (対象: 高齢者45名(65 ~ 87歳))

§ Thorson & Powell(2000)

- ・ 内発的宗教信仰の高い者 死の不安が有意に低い .
- (対象: 地域住民346名(18 ~ 88歳))

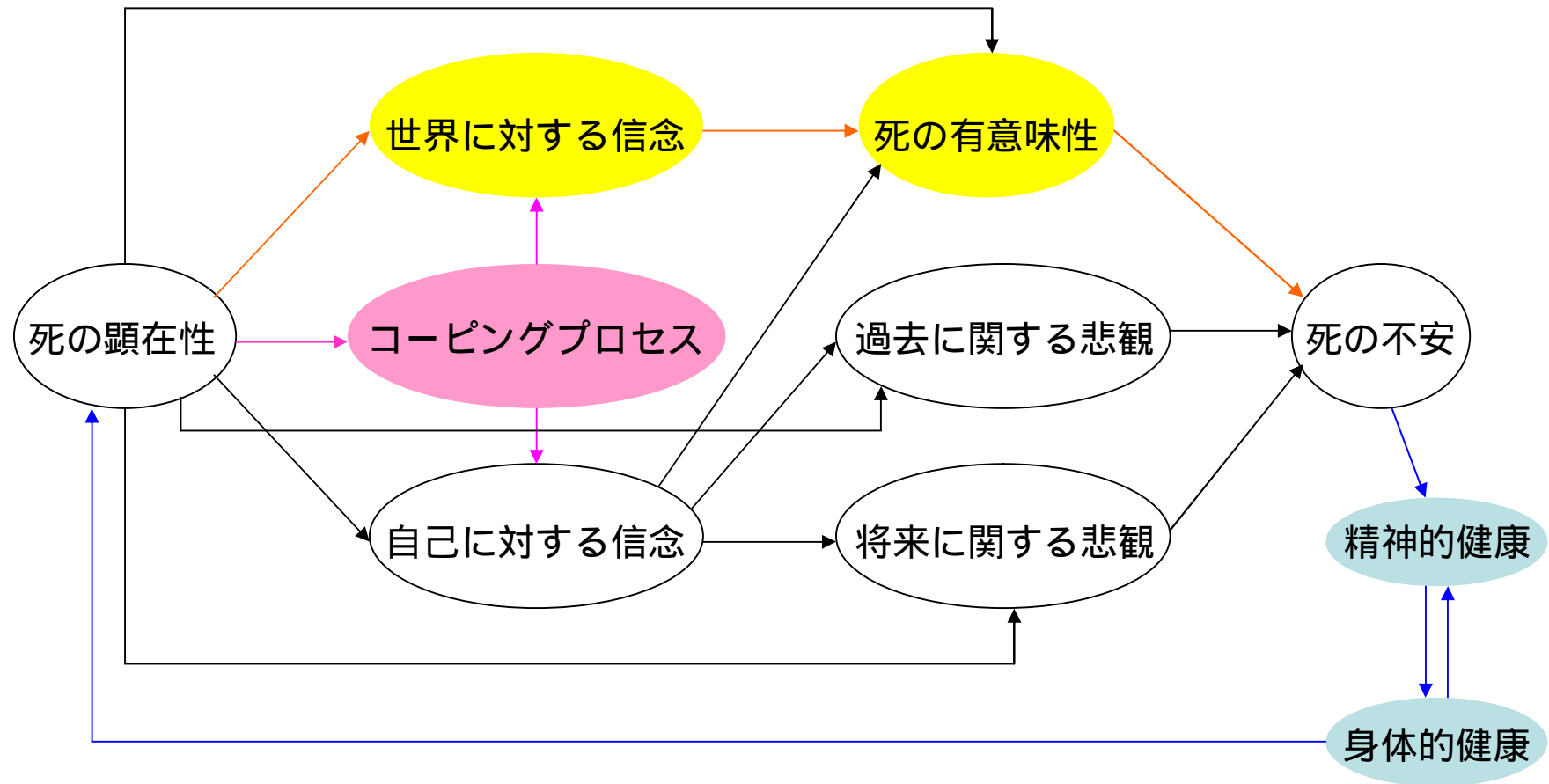
§ James & Wells(2002)

- ・ 死にまつわる迷信(言い伝え)に対する信心の高い者 健康不安が有意に低い .
- ↑ この関係性は, ローマカトリック教徒 > 無神論者
- (対象: ローマカトリック教徒と無神論者303名(18 ~ 79歳))

宗教的態度と死の不安は、負の関連をもつ。

(自己の属する宗教への信仰が内発的であり, 宗教行動の頻度が高いと, 死の不安が低減される。)

『以上の研究知見のもつ意義』



ここでのコーピングプロセスとは・・・

- ・ 自己の人生の概観： 回想により，過去の矛盾を統合し，自我の完全性や満足を高める．
- ・ 人生設計： 人生の主たる目標の熟考と再定義により，現実自己と理想自己との差を縮める．
- ・ **自己の文化の同一化**： 文化や，価値をおく基準の達成との同一化により，自尊心を高める．
- ・ **自己超越プロセス**： 世界観や統一体(宇宙)についての考えを発達させ，自己の消滅を受容する．



人間の健康を考えるうえで既に重要視されているコーピングに加え，そのコーピングが直接作用する，あるいはコーピングプロセス自身に内包される，宗教にまつわる意識(宗教から得られる信念)が，健康にとって非常に大きな意味をもつ．



宗教が人間の健康側面において，直接的あるいは間接的にもたらす影響(貢献)がどれほどの大きさをもつかを明確化することとなる．



デス・エデュケーション，健康教育，ストレス・マネジメント等の方略として組み込む際の，1つの指針となる可能性への示唆．

ご清聴、有り難うございました。

